

平成24事業年度

事業報告書

自 平成24年4月 1日

至 平成25年3月31日

独立行政法人勤労者退職金共済機構

— 目 次 —

I. 国民の皆様へ	1
1. 事業の概要	1
(1) 中小企業退職金共済制度	1
(2) 勤労者財産形成促進制度（財形持家融資制度）	1
(3) 雇用促進融資制度	2
2. 平成 24 年度の概況	2
3. 当面の主要課題	3
(1) 退職金制度への着実な加入	3
(2) 将来にわたる確実な退職金給付のための財務基盤の確保	3
(3) 確実な退職金支給のための取組	3
(4) 財形持家融資制度の普及・促進	4
(5) 随意契約の見直し	4
II. 基本情報	4
1. 法人の概要	4
(1) 法人の目的	4
(2) 業務内容	4
(3) 沿革	5
(4) 設立根拠法	5
(5) 主務大臣（主務省所管課等）	5
(6) 組織図	6
2. 本社の住所	6
3. 資本金の状況	6
4. 役員の状況	7
5. 常勤職員の状況	7
6. 審議等機関	7
(1) 人数	7
(2) 業務内容	7
(3) 構成員の氏名	8
III. 簡潔に要約された財務諸表	9
1. 貸借対照表	9
2. 損益計算書	10
3. キャッシュ・フロー計算書	11
4. 行政サービス実施コスト計算書	11

財務諸表の科目の説明（主なもの）	
①貸借対照表	12
②損益計算書	13
③キャッシュ・フロー計算書	14
④行政サービス実施コスト計算書	15
IV. 財務情報	16
1. 財務諸表の概況	16
(1) 経常費用、経常収益、当期総損益、資産、負債、キャッシュ・フローなどの主要な財務データの経年比較・分析（内容・増減理由）	16
(2) セグメント事業損益の経年比較・分析（内容・増減理由）	21
(3) セグメント総資産の経年比較・分析（内容・増減理由）	23
(4) 目的積立金の申請及び取崩内容	24
(5) 行政サービス実施コスト計算書の経年比較・分析（内容・増減理由）	24
2. 施設等投資の状況（重要なもの）	25
3. 予算・決算の概況	26
4. 経費削減及び効率化目標との関係	27
V. 事業の説明	28
1. 財源構造	28
2. 財務データ及び業務実績報告書と関連付けた事業説明	29

## I. 国民の皆様へ

### 1. 事業の概要

#### (1) 中小企業退職金共済制度

中小企業退職金共済制度は、中小企業の事業主の相互共済の仕組みと国の援助によって退職金制度を確立して、従業員の福祉の増進と企業の振興に寄与することを目的に中小企業退職金共済法（昭和34年法律第160号。以下「中退法」という。）に基づいて昭和34年に発足した制度です。独立行政法人勤労者退職金共済機構（以下「機構」という。）は、同法によって設立され、この事業の運営に当たっています。

退職金共済事業は以下のとおり大きく2つに分けることができます。

##### ① 一般の中小企業退職金共済事業

中小企業の従業員（雇用形態を問わない）を対象とし、事業主（共済契約者）が掛金を納付し、当該従業員が退職したときに、機構から当該従業員に退職金が給付される仕組みです。

##### ② 特定業種退職金共済事業

特定業種（厚生労働大臣が指定：現在、建設業、清酒製造業、林業の三業種）において期間雇用される従業員を対象とし、共済手帳に事業主（共済契約者）が雇用日数に応じ共済証紙を貼付し、当該従業員が業界で働くことをやめたときに、機構から当該従業員に退職金が給付される仕組みです。

当機構は、一般の中小企業退職金共済（以下「中退共」という。）事業、建設業退職金共済（以下「建退共」という。）事業、清酒製造業退職金共済（以下「清退共」という。）事業及び林業退職金共済（以下「林退共」という。）事業の各事業において、『退職金制度への着実な加入』のため、加入促進対策の効果的実施・加入者サービスの向上、『将来にわたる確実な退職金給付のための財務基盤の確保』のため、財務内容の改善・業務運営の効率化を図っています。

#### (2) 勤労者財産形成促進制度（財形持家融資制度）

勤労者財産形成促進制度は、勤労者の計画的な財産形成を促進することにより、勤労者の生活の安定を図り、もって国民経済の健全な発展に寄与することを目的に勤労者財産形成促進法（昭和46年法律第92号）に基づいて発足した制度で、このうち財形持家融資制度は、財形貯蓄を行っている勤労者の持家取得、勤労者の持家である住宅の改良に要する資金を、機構が、事業主等を通じて勤労者に融資する制度です。

当機構は、『財形持家融資制度の普及・促進』のため、中小企業に対する情報提

供の充実等を図っています。

### (3) 雇用促進融資制度

雇用促進融資制度は、中小企業における労働力の確保、産業・地域間との労働力移動の円滑化を図るため企業内福利厚生施設を設置・整備する事業主を金融面から支援する制度で、財政投融资資金を原資として、事業主に対し、労働者住宅設置資金・福祉施設設置資金を長期・低利で融資する制度でしたが、特殊法人等整理合理化計画等により平成 14 年度から新規貸付業務が廃止されました。

当機構は、同制度に係る債権の管理回収業務を行っております。

## 2. 平成 24 年度の概況

平成 24 年度における機構を取り巻く環境をみると、我が国の経済は、海外経済の失速により景気後退の局面に入っていました。東日本大震災の復興需要を背景に下支えする中、自公政権による経済政策への期待感から円安・株高が進み、緩やかに回復していると見込まれます。しかし、海外経済への不安は依然高く、国内においても経済政策によるデフレへの影響を注視していく必要があります。

企業の業況判断は、前述の円安・株高により経済界全体に景気への高揚感がありますが、中小・零細企業への波及は未だ限定的とみられ、依然厳しい経営環境に置かれております。特定業種の建設業については、東日本大震災による公共工事の増加が見込まれますが、清酒製造業及び林業においては酒類の消費嗜好の変化、国産木材価格の低迷などにより、厳しい状況が続いています。

一方、個人消費はもち直しており、住宅ローン市場については、底堅い住宅需要のもと、堅調に推移しているものの、激しい金利競争下、厳しい状況が続いております。

このような状況下で、退職金共済事業の使命の 1 つである『退職金制度への着実な加入』については、効果的な加入促進対策を講じましたが、機構全体として 443,995 人の加入実績となり、年度の加入目標数 457,030 人に対し 97.1 %と残念ながら目標を下回りました。

もう 1 つの使命である『将来にわたる確実な退職金給付のための財務基盤の確保』については、資産運用は、それぞれの事業における「資産運用の基本方針」に基づき、健全性の向上に必要な収益の確保を目指し、最適な資産配分である基本ポートフォリオの維持に努め資産運用を行いました。平成 24 年度は委託運用においては内外債券高、内外株高によりプラス収益を確保し、自家運用においても安定した収益を確保することができました。各事業において運用益が生じたことと、加入促進対策の効果的な実施などにより一定の掛金等収入を確保することができ(32 ページ「表 2」参照)、平成 24 年度の当期純利益は 2,554 億円となりました。この結果、中退共事業においては累積欠損金を解消することができました。また、林退共事業の累積欠損金は、平成 23 年度末時点の 13 億円から 11 億円に減少いたしました(32 ページ「表 3」参照)。

なお、これらの累積欠損金については、独立行政法人となった平成 15 年 10 月時点の 3,251 億円から 11 億円に減少しましたが、資産運用は市場の動向に大きく左右さ

れるものであり、中長期的観点から行うべきものであることから、今後とも、平成17年度に策定した「累積欠損金解消計画」に基づき着実に解消に取り組んでまいります。

また、中退共事業における退職金未請求問題及び建退共事業・清退共事業・林退共事業における共済手帳長期未更新問題につきましては、中期計画に基づき、共済契約者を通じて被共済者の住所等を把握し、当該被共済者に退職金請求及び共済手帳更新を促す取組み等を進め、確実な支給に向けた取組みを進めてまいります。

勤労者財産形成促進事業については、『財形持家融資制度の普及・促進』のため、外部委託の活用及び関係機関との連携等、効果的な制度の周知を図ったこと等により、貸付決定実績は増加し（前年度比約29%増）、当期純利益は44億円となりました。この結果、平成23年度末時点の累積欠損金27億円は解消され、16億円の利益剰余金が発生し、積立金として整理しました。

### 3. 当面の主要課題

機構は、第3期中期目標期間（平成25年度から平成29年度の5年間）に取り組むべき課題として定めた第3期中期計画に基づき、主に以下のような事項に取り組んでまいります。

#### (1) 退職金制度への着実な加入

各退職金共済事業において、関係官公庁、関係事業主団体等との連携の下に、加入促進対策について費用対効果を踏まえ実施いたします。

加入者が行う諸手続や提出書類の合理化、機構内の事務処理の迅速化等を図るとともに、ホームページを活用した情報提供を充実いたします。

また、中小企業事業主団体、関係業界団体及び関係労働団体の有識者から、意見・要望等を聴取し、ニーズに即した業務運営を行います。

#### (2) 将来にわたる確実な退職金給付のための財務基盤の確保

各退職金共済事業の資産運用については、資産運用の目標、基本ポートフォリオ等を定めた「資産運用の基本方針」に基づき、安全かつ効率を基本として実施いたします。

また、外部の資産運用の専門家から「資産運用の基本方針」に沿った資産運用が行われているかを中心に運用実績の評価を受け、評価結果を事後の資産運用に反映いたします。

累積欠損金が生じている林退共事業においては、健全な資産運用・積極的な加入促進による収益改善及び事務の効率化等による経費節減を図り、「累積欠損金解消計画」に基づき同計画に沿った着実な累積欠損金の解消を図ります。

#### (3) 確実な退職金支給のための取組

中退共事業においては、新たな退職金未請求者の発生を防止するため、加入時に、共済契約者を通じ、被共済者に対して加入したことを通知すること、退職後、一定期間経過後も退職金が未請求である者に対し、機構から直接請求を促すこと等の取

組を行います。

また、これまでに生じた退職金未請求者に退職金を支給するため、未請求者が働いていた事業所に対して、順次、未請求者の住所等の情報提供を依頼し、入手した情報に基づき被共済者に対して請求を要請してまいります。その他、あらゆる機会を通じて未請求者縮減のための効果的な周知広報を行うなどの取組みを進めてまいります。

建退共事業においては、加入時に、被共済者に対する加入通知を継続して行うとともに、共済手帳の更新時等においても被共済者の住所を把握いたします。

また、過去3年間共済手帳の更新のない被共済者に対する長期未更新者調査を引き続き実施し、その住所の把握に努め、共済手帳更新、退職金請求等の手続を要請いたします。

清退共事業及び林退共事業においては、加入時に、被共済者に加入したことを通知するとともに、共済手帳の更新時等においても被共済者の住所を把握いたします。

また、過去3年間共済手帳の更新がなく、退職金請求権を有する被共済者に対する長期未更新者調査を実施し、その住所の把握に努め、共済手帳更新、退職金請求等の手続を要請いたします。

#### (4) 財形持家融資制度の普及・促進

財形持家融資制度については、効果的な普及啓発活動により当年度貸付額の確保を図りつつ適正な貸付金利の設定等により、自立的な財政規律の下、安定的かつ効率的な財政運営を実施いたします。

#### (5) 随意契約の見直し

契約については、原則として一般競争入札等によるものとし、既存の随意契約は平成19年度に策定した「随意契約見直し計画」に基づき着実に見直しを行い、実施状況について公表いたしておりますが、引き続き平成22年度に策定した「随意契約等見直し計画」に基づき契約状況について点検・見直しを行い、公表してまいります。

## II. 基本情報

### 1. 法人の概要

#### (1) 法人の目的

機構は、中小企業の従業員の福祉の増進と中小企業の振興に寄与するために、中小企業の従業員について、中小企業者の相互扶助の精神に基づき、その拠出による退職金共済制度を運営すること及び勤労者の計画的な財産形成の促進の業務を行うことを目的としております。(中退法第1条及び第58条)

#### (2) 業務内容

当機構は、上記(1)の目的を達成するため以下の業務を行います。

- ① 中退共事業、建退共事業、清退共事業及び林退共事業

② 勤労者財産形成促進事業

③上記①及び②に掲げる事業に附帯する業務

なお、以下の業務につきましては、既に廃止されておりますが、貸し付けた資金に係る債権の回収が終了するまでの間、当該債権の管理及び回収を行うこととされております。

① 加入事業主に対する資金の貸付業務（平成 14 年 11 月に廃止。（中退法の一部を改正する法律（平成 14 年法律第 164 号）（以下、「法」という。）附則第 5 条））

② 財形持家分譲融資（平成 19 年 4 月に廃止。（中退法附則第 2 条第 1 項第 2 号））

③ 財形教育融資（平成 23 年 9 月に廃止。（中退法附則第 2 条第 1 項第 3 号））

④ 雇用促進融資（平成 14 年 3 月に廃止。（中退法附則第 2 条第 1 項第 4 号））

(3) 沿革

昭和 34 年	7 月	1 日	「中小企業退職金共済事業団」設立
昭和 39 年	10 月	15 日	「建設業退職金共済組合」設立
昭和 42 年	9 月	1 日	「清酒製造業退職金共済組合」設立
昭和 56 年	10 月	1 日	「建設業・清酒製造業退職金共済組合」設立 （「建設業退職金共済組合」「清酒製造業退職金共済組合」統合）
昭和 57 年	1 月	1 日	「建設業・清酒製造業・林業退職金共済組合」名称変更 （林業退職金共済事業の開始）
平成 10 年	4 月	1 日	「勤労者退職金共済機構」設立 （「中小企業退職金共済事業団」「建設業・清酒製造業・林業退職金共済組合」統合）
平成 15 年	10 月	1 日	「独立行政法人勤労者退職金共済機構」設立 （特殊法人から独立行政法人に移行）
平成 23 年	10 月	1 日	「独立行政法人雇用・能力開発機構」の解散に伴う業務移管により勤労者財産形成促進事業を開始

(4) 設立根拠法

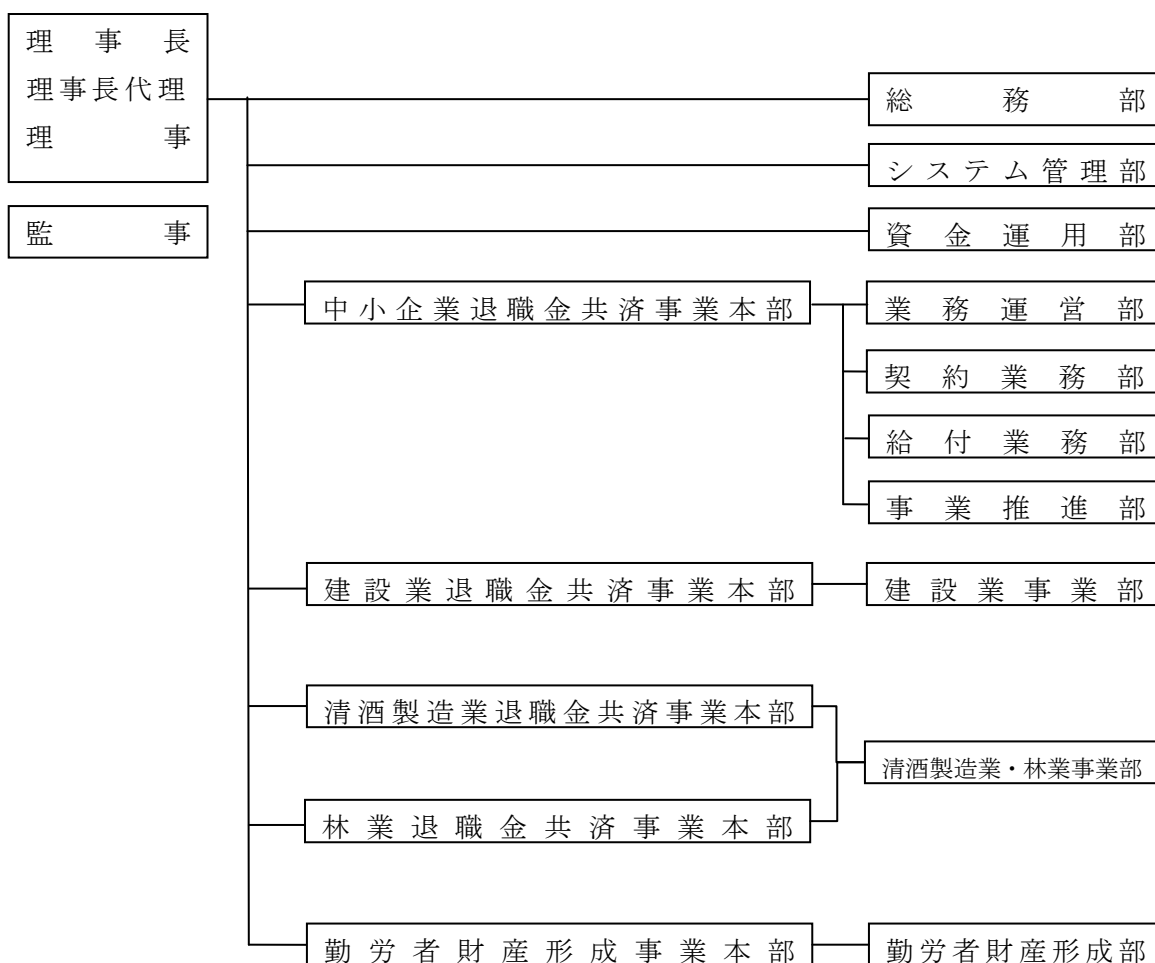
中退法

(5) 主務大臣（主務省所管課等）

厚生労働大臣（厚生労働省労働基準局勤労者生活課）



(6) 組織図



2. 本社の住所

東京都豊島区東池袋1丁目24番1号

3. 資本金の状況

(単位：百万円)

区分	期首残高	当期増加額	当期減少額	期末残高
政府出資金	2	-	-	2
資本金合計	2	-	-	2

#### 4. 役員の状況

(平成 25 年 3 月 31 日現在)

役 職	氏 名	任 期	担 当	経 歴 (最終職名)
理事長	額賀 信	自 平成 23 年 10 月 1 日 至 平成 27 年 9 月 30 日		(株)ちばぎん総合研究所取締役会長
理 事 (理事長代理)	櫻井 康好	自 平成 23 年 10 月 1 日 至 平成 25 年 9 月 30 日	建退共 担 当	(財)建設経済研究所常務理事 (国土交通省大臣官房付)
理 事	東 健作	自 平成 23 年 10 月 1 日 至 平成 25 年 9 月 30 日	総 務 清退共 林退共 財 形 担 当	ドイツ証券(株)投資銀行本部マネージング・デ ィレクター
理 事	菅原 晴樹	自 平成 23 年 10 月 1 日 至 平成 25 年 9 月 30 日	中退共 担 当	(株)大和総研年金コンサルティング部参事 チーフコンサルタント
監 事 (常 勤)	鈴木 正男	自 平成 23 年 10 月 1 日 至 平成 25 年 9 月 30 日		独立行政法人勤労者退職金共済機構 林業退職金共済事業本部林業事業部長
監 事 (非常勤)	佐藤 裕治	自 平成 23 年 10 月 1 日 至 平成 25 年 9 月 30 日		監査法人大手門会計事務所社員 (現職)

#### 5. 常勤職員の状況

常勤職員は平成 24 年度末において 269 人（前期末比増減なし）であり、平均年齢は 41 歳（前期末 42 歳）となっています。このうち、国からの出向者は 6 人、民間からの出向者は 3 人です。

#### 6. 審議等機関

機構に、特定業種退職金共済事業の円滑な運営を図るため、特定業種ごとに、「運営委員会」を置くこととされています。（中退法第 67 条）

- (1) 人 数 3 業種、各 20 名以内
- (2) 業務内容
- ① 特定業種退職金共済規程の変更の審議
  - ② 業務方法書の変更の審議
  - ③ 通則法第 30 条第 1 項に規定する中期計画の審議
  - ④ 通則法第 31 条第 1 項に規定する年度計画の審議
  - ⑤ 上記に掲げるもののほか、当該特定業種に係る業務の運営に関し特に重要な事項の審議

## (3) 構成員の氏名

(平成 25 年 3 月 31 日現在)

建設業退職金共済事業		清酒製造業退職金共済事業		林業退職金共済事業	
浅沼 健一	森田 紘一	篠原 成行	白髪 良一	佐藤 重芳	前川 收
岩田 圭剛	橋口 光徳	久慈 浩	櫻井 武寛	村上 守義	山野 隆
佐藤 博俊	野村 哲也	白樫 達也	重藤 久紘	中崎 和久	吉条 良明
近藤 晴貞	岡本 弘	大倉 治彦	南部 隆保	江連比出市	松原 正和
本間 達郎	才賀清二郎	本坊 松美	三宅 清嗣	酒井 茂英	川井喜久博
松田 七男	有馬修一郎	岡本 佳郎	吉田 映治	村松 二郎	速水 亨
伊藤 孝	村重 芳雄	山本 純一	江崎 俊介	村松 幹彦	海瀬亀太郎
蔦田 守弘	三好 武夫	橋場 英昭	萱島 進	山本 陽一	岩切 好和
矢部 幸雄	上田 卓司	廣瀬 淳一	平良正諭輝	石堂 則本	中村 勝信
中筋 豊通	白石 達	小西新太郎		木村 薫	大山 剛

### Ⅲ. 簡潔に要約された財務諸表

#### 1. 貸借対照表 ([http://www.taisyokukin.go.jp/dis/dis02\\_03.html](http://www.taisyokukin.go.jp/dis/dis02_03.html))

(単位：百万円)

科目	金額
資産の部	
流動資産	
現金・預金等	44,532
有価証券	391,917
金銭信託	1,978,810
財形融資貸付金	626,903
財形融資資金貸付金	20,280
その他	13,971
固定資産	
有形固定資産	522
無形固定資産	352
投資その他の資産	2,542,639
投資有価証券	2,276,912
その他	265,726
資産合計	5,619,926
負債の部	
流動負債	
一年以内返済予定の長期借入金	78,612
一年以内返済予定の財形住宅債券	147,573
未払給付金	5,478
前受金	2,615
その他	1,085
固定負債	
共済契約準備金	4,793,648
支払備金	94,996
責任準備金	4,698,653
財形住宅債券	436,267
退職給付引当金	6,918
その他	9,136
負債合計	5,481,333

純資産の部	
資本金	
政府出資金	2
資本剰余金	
損益外減損損失累計額	△6
利益剰余金	138,505
その他有価証券評価差額金	93
純資産合計	138,594
負債純資産合計	5,619,926

(注) 単位未満四捨五入。

2. 損益計算書 ([http://www.taisyokukin.go.jp/dis/dis02\\_03.html](http://www.taisyokukin.go.jp/dis/dis02_03.html))

(単位：百万円)

科目	金額
経常費用 (A)	474,409
業務費	
人件費	2,210
退職給付金	426,802
運用費用	522
減価償却費	20
責任準備金繰入	19,845
その他	17,376
一般管理費	
人件費	750
減価償却費	268
その他	181
財務費用	6,434
経常収益 (B)	726,069
運営費交付金収益	534
事業収益	
掛金及過去勤務掛金収入	409,580
運用収入	295,976
その他	11,021
補助金等収益	8,557
支払備金戻入	124
その他	277
臨時損失 (C)	601
臨時利益 (D)	4,304
当期総利益 (B-A-C+D)	255,364

(注) 単位未満四捨五入。

3. キャッシュ・フロー計算書 ([http://www.taisyokukin.go.jp/dis/dis02\\_03.html](http://www.taisyokukin.go.jp/dis/dis02_03.html))

(単位：百万円)

科目	金額
I 業務活動によるキャッシュ・フロー (A)	83,261
退職給付金支出	△437,062
貸付けによる支出	△11,308
人件費支出	△2,487
運営費交付金収入	421
事業収入	409,830
補助金等収入	7,605
その他収入・支出	116,262
II 投資活動によるキャッシュ・フロー (B)	△3,200
III 財務活動によるキャッシュ・フロー (C)	△73,172
IV 資金増加額 (又は減少額) (D=A+B+C)	6,889
V 資金期首残高 (E)	36,517
VI 資金期末残高 (F =D+E)	43,406

(注) 単位未満四捨五入。

4. 行政サービス実施コスト計算書 ([http://www.taisyokukin.go.jp/dis/dis02\\_03.html](http://www.taisyokukin.go.jp/dis/dis02_03.html))

(単位：百万円)

科目	金額
I 業務費用	△246,265
損益計算書上の費用 (控除) 自己収入等	475,009 △721,274
(その他の行政サービス実施コスト)	
II 引当外賞与見積額	△13
III 引当外退職給付増加見積額	△375
IV 機会費用	0
V (控除) 法人税等及び国庫納付額	△162
VI 行政サービス実施コスト	△246,815

(注) 単位未満四捨五入。

## 財務諸表の科目の説明（主なもの）

### ① 貸借対照表

貸借対照表は、独立行政法人の財政状態を明らかにするため、貸借対照表日（事業年度末日）における全ての資産、負債及び純資産を表示したものであります。

#### ア) 流動資産

現金・預金等： 現金、預金等

有価証券： 一時的に所有する有価証券又は一年以内に満期の到来する債券等

金銭信託： 信託業務を営む銀行又は信託会社への信託等

財形融資貸付金

： 財形持家転貸資金、財形教育資金等の貸付金

財形融資資金貸付金： 沖縄振興開発金融公庫等への貸付金

その他： 福祉施設等設置資金貸付金

（労働者住宅設置資金貸付金、福祉施設設置資金貸付金）等

#### イ) 固定資産

有形固定資産： 建物、構築物、工具器具備品、土地など機構が長期にわたって使用又は利用する有形の固定資産

無形固定資産： 電話加入権、ソフトウェア

投資有価証券： 一時的に所有するもの以外の有価証券又は一年以内に満期の到来しない債券等

その他： 破産更生債権等

（経営破綻又は実質的に経営破綻に陥っている債務者に対する債権）

#### ウ) 流動負債

一年以内返済予定の長期借入金

： 財形融資及び雇用促進融資に係る資金調達のために借り入れた一年以内に返済予定の借入金

一年以内返済予定の財形住宅債券

： 財形融資に係る資金調達のために発行した一年以内に返済予定の債券

未払給付金： 当事業年度内に確定した被共済者（加入従業員）に支払う退職給付金及び解約手当給付金（以下、「退職金等」という。）の支払未済額

前受金： 共済契約者（加入事業主）から受け入れた翌事業年度に属する前納掛金

その他： 預り補助金等（国から交付を受ける補助金のうち、不用額として翌年度に返納を予定するもの）等

#### エ) 固定負債

- 支払備金 : 当事業年度末までに以下に該当するものの退職金等の金額を計上  
 ・請求を受けたが支払未済のもの  
 ・退職届の提出があったもの及び退職等と認められるもの
- 責任準備金 : 被共済者(加入従業員)の将来の退職金の支払に備えるため、厚生労働省令により、厚生労働大臣及び厚生労働省労働基準局勤労者生活部勤労者生活課長の定めるところによる金額を計上
- 財形住宅債券 : 財形融資に係る資金調達のために発行した一年以内に返済予定の債券以外の債券
- 退職給付引当金 : 役職員の退職金の支給に備えるための期末要支給額及び年金基金積立不足額に係る引当金
- その他 : 長期借入金 (雇用促進融資業務に係る資金調達のために借り入れた一年以内に返済予定の借入金以外の借入金) 等

オ) 資本金

政府出資金 : 国からの出資金(現物出資)であり、財産的基礎を形成するもの

カ) 資本剰余金

損益外減損損失累計額

: 機構が中期計画等で想定した業務を行ったにもかかわらず生じた減損損失相当額の累計

キ) 利益剰余金 : 機構の業務に関連して発生した剰余金の累計額

ク) その他有価証券評価差額金

: 有価証券及び投資有価証券のうち、その他有価証券(売買目的有価証券、満期保有目的債券及び関係会社株式以外の有価証券)に係る帳簿価額と時価の差額

② 損益計算書

損益計算書は、独立行政法人の運営状況を明らかにするため、一会計期間に属する全ての費用とこれに対応する全ての収益を記載して、当期総利益(当期総損失)を表示したものであります。

ア) 業務費

- 人件費 : 給与、賞与、退職手当、法定福利費等、機構の業務関係の職員等に要する経費
- 退職給付金 : 被共済者(加入従業員)に支給した退職金
- 運用費用 : 生命保険に係る保険事務費、金銭信託に係る時価評価損、及びその他運用に伴う費用
- 減価償却費 : 固定資産の取得原価をその耐用年数にわたって費用として配分する経費
- 責任準備金繰入 : 前事業年度の責任準備金と当事業年度の責任準備金との差額
- その他 : 解約手当給付金(被共済者(加入従業員)に支給した解約手



当金)、財形融資業務並びに雇用促進融資業務の実施に要した経費等

イ) 一般管理費

人件費 : 給与、賞与、退職手当、法定福利費等、機構の役員及び総務関係の職員等に要する経費

減価償却費 : 固定資産の取得原価をその耐用年数にわたって費用として配分する経費

その他 : 雑役務費(役務の提供に対する費用)等

ウ) 財務費用 : 支払利息

エ) 運営費交付金収益 : 国から交付される運営費交付金のうち、当期の収益として認識した収益

オ) 事業収益

掛金及過去勤務掛金収入

: 共済契約者(加入事業主)から受け入れた掛金及び過去勤務掛金

運用収入 : 債券等利息、及びその他の運用収入

その他 : 貸付金利息 財形融資業務及び雇用促進融資業務における貸付金利息収入等

カ) 補助金等収益 : 退職金共済事業における共済契約者への掛金助成費として国から交付を受ける補助金及び雇用促進融資における支払利息補填費並びに事務費として国から交付を受ける補助金のうち、当期の収益として認識した収益

キ) 支払備金戻入 : 前事業年度の支払備金と当事業年度の支払備金との差額

ク) その他 : 資産見返運営費交付金戻入(運営費交付金により取得した資産の当事業年度の減価償却費等)等

③ キャッシュ・フロー計算書

キャッシュ・フロー計算書は、独立行政法人の一会計期間におけるキャッシュ・フローの状況を報告するため、キャッシュ・フローを活動区分(業務活動、投資活動及び財務活動)別に表示したものであります。

ア) 業務活動によるキャッシュ・フロー

: 機構の通常の業務の実施に係る資金の状態を表し、退職金共済事業においては、共済契約者(加入事業主)から受け入れた掛金収入等、被共済者(加入従業員)へ支払う退職給付金による支出、人件費支出等が該当、財形融資及び雇用促進融資においては、債務者からの回収金収入等その他、人件費支出等が該当

イ) 投資活動によるキャッシュ・フロー

: 制度を安定的に運営する上で必要とされる収益を長期的に確保すること

を目的とした有価証券等の取得・償還等による収入支出及び機構の業務活動の実施の基礎となる固定資産等の取得・売却等による収入支出が該当

ウ) 財務活動によるキャッシュ・フロー

: 主に貸付金の原資としている借入金及び財形住宅債券に係る収支を表し、債券の発行による収入、債券の償還による支出、長期借入れによる収入及び長期借入金返済による支出等が該当

④ 行政サービス実施コスト計算書

行政サービス実施コスト計算書は、納税者である国民の行政サービスに対する評価・判断に資するため、一会計期間に属する独立行政法人の業務運営に関し、行政サービス実施コストに係る情報を一元的に集約したものであります。

独立行政法人の行政サービス実施コストとは、独立行政法人の業務運営に関して、国民の負担に帰せられるコストを言います。また、行政サービス実施コスト計算書の構成要素は以下のとおりであります。(独立行政法人の損益計算書に計上される損益は、法人の業績を示す損益であって必ずしも納税者にとっての負担とは一致しません。そのため、行政サービス実施コストは以下の項目により算出することとされております。)

ア) 業務費用 : 機構が実施する行政サービスのコストのうち、機構の損益計算書に計上される費用

イ) その他の行政サービス実施コスト

: 機構の損益計算書に計上されないが、行政サービスの実施に費やされたと認められるコスト

ウ) 引当外賞与見積額・引当外退職給付増加見積額

: 運営費交付金により財源措置されることが明らかな場合の賞与引当金見積額及び退職給付引当金見積額の増減額

将来支給する賞与及び退職金については、当期以前の事象に起因する合理的な見積額を引当金として貸借対照表に負債計上するとともに、当期の負担に帰すべき額を損益計算書に費用計上します。しかし、その財源措置が運営費交付金により行われることが中期計画等で明らかにされている場合には、これらの引当金は計上しないこととされています。この場合、当期の国民の負担に帰せられるコストを示すための調整額を、「引当外賞与見積額」及び「引当外退職給付増加見積額」として、それぞれ行政サービス実施コスト計算書に表示します。

・ 引当外賞与見積額の算出方法

当期末における引当外賞与見積額－前期末における引当外賞与見積額

・ 引当外退職給付増加見積額の算出方法

当期末における引当外退職給付見積額－前期末における引当外退職給付見積額＋国からの出向職員に係る引当外退職給付増加見積額

エ) 機会費用 : 政府出資又は地方公共団体出資等の機会費用

#### IV. 財務情報

##### 1. 財務諸表の概況

以下の数値は、百万円未満を四捨五入としている。

- (1) 経常費用、経常収益、当期総損益、資産、負債、キャッシュ・フローなどの主要な財務データの経年比較・分析（内容・増減理由）

##### (経常費用)

平成24年度の経常費用は474,409百万円と、前年度比125,121百万円減(20.9%減)となっている。これは、前年度で適格年金制度からの移行が終了したことにより責任準備金繰入が145,183百万円と前年度比125,338百万円減(86.3%減)となったことが主な要因である。

##### (経常収益)

平成24年度の経常収益は726,069百万円と、前年度比91,160百万円増(14.4%増)となっている。これは、金銭信託の評価益(254,164百万円)により、運用収入が前年度比214,407百万円増(262.9%増)となったことが主な要因である。

##### (当期総利益)

上記経常損益の状況の結果、平成24年度の当期総利益は255,364百万円(平成23年度は35,509百万円の当期総利益)と、前年度比219,854百万円増となっている。

##### (資産)

平成24年度末現在の資産合計は5,619,926百万円と、前年度末比203,828百万円増となっている。これは、金銭信託の評価益(254,164百万円)により金銭信託が前年度比250,710百万円増となったことが主な要因である。

##### (負債)

平成24年度末現在の負債合計は5,481,333百万円と、前年度末比51,527百万円減となっている。これは、勤労者財産形成促進事業の財形住宅債券が58,310百万円減となったことが主な要因である。

(業務活動によるキャッシュ・フロー)

平成24年度の業務活動によるキャッシュ・フローは83,261百万円と、前年度比90,572百万円減となっている。これは、前年度で適格年金制度からの移行が終了したことにより引継金135,376百万円減となったことが主な要因である。

(投資活動によるキャッシュ・フロー)

平成24年度の投資活動によるキャッシュ・フローは△3,200百万円と、前年度比145,608百万円増となっている。これは、有価証券の償還による収入が前年度比117,509百万円増(46.0%増)となったことが主な要因である。

(財務活動によるキャッシュ・フロー)

平成24年度の財務活動によるキャッシュ・フローは△73,172百万円と、前年度比40,059百万円減(121.0%減)となっている。これは、勤労者財産形成促進事業の債券の償還による支出が前年度比74,400百万円増(117.4%増)となったことが主な要因である。

表1 主要な財務データの経年比較(機構)

当機構の中期目標期間は以下のとおりである。

第1期中期目標期間：平成15年度～平成19年度

第2期中期目標期間：平成20年度～平成24年度

(単位：百万円)

区分	20年度	21年度	22年度	23年度	24年度
経常費用	768,169	553,339	597,889	599,530	474,409
経常収益	537,800	728,766	567,991	634,909	726,069
当期総利益(又は当期総損失)	△230,426	170,547	△18,303	35,509	255,364
資産	4,191,787	4,392,585	4,491,024	5,416,099	5,619,926
負債	4,492,154	4,523,156	4,639,905	5,532,859	5,481,333
利益剰余金(又は繰越欠損金)	△300,471	△130,642	△148,945	△116,858	138,505
業務活動によるキャッシュ・フロー	△12,418	21,612	109,955	173,834	83,261
投資活動によるキャッシュ・フロー	10,568	△11,160	△113,259	△148,808	△3,200
財務活動によるキャッシュ・フロー	△13	△8	△131	△33,113	△73,172
資金期末残高	28,727	39,173	35,737	36,517	43,406

表2 主要な財務データの経年比較（一般の中小企業退職金共済事業等勘定）

(単位：百万円)

区分	20年度	21年度	22年度	23年度	24年度
経常費用	654,491	486,364	533,376	532,493	404,172
経常収益	461,466	641,795	511,666	564,130	627,630
当期総利益（又は当期総損失）	△193,025	152,061	△10,116	31,598	227,548
資産	3,313,304	3,499,873	3,608,668	3,787,743	4,032,502
負債	3,661,892	3,696,930	3,815,841	3,963,277	3,980,477
利益剰余金（又は繰越欠損金）	△348,583	△197,002	△207,118	△175,520	52,029
業務活動によるキャッシュ・フロー	13,040	33,613	118,610	144,548	10,972
投資活動によるキャッシュ・フロー	△11,217	△30,974	△119,495	△143,334	△12,251
財務活動によるキャッシュ・フロー	△13	△8	△112	△97	△90
資金期末残高	9,837	12,469	11,471	12,589	11,219

表3 主要な財務データの経年比較（建設業退職金共済事業等勘定）

(単位：百万円)

区分	20年度	21年度	22年度	23年度	24年度
経常費用	111,876	70,579	67,275	62,439	62,338
経常収益	74,552	89,922	58,055	64,026	85,367
当期総利益（又は当期総損失）	△37,381	18,148	△9,220	1,519	23,015
資産	858,877	873,101	863,041	865,525	892,775
負債	810,419	806,719	805,880	806,844	811,079
利益剰余金（又は繰越欠損金）	48,459	66,383	57,163	58,682	81,697
業務活動によるキャッシュ・フロー	△24,887	△11,697	△8,341	△3,874	△243
投資活動によるキャッシュ・フロー	21,228	18,988	6,222	△4,937	△912
財務活動によるキャッシュ・フロー	—	—	△19	△97	△28
資金期末残高	18,638	25,929	23,791	14,883	13,700

表4 主要な財務データの経年比較（清酒製造業退職金共済事業等勘定）

(単位：百万円)

区分	20年度	21年度	22年度	23年度	24年度
経常費用	787	710	573	443	329
経常収益	903	1,213	1,614	402	395
当期総利益（又は当期総損失）	116	307	1,041	△41	64
資産	6,308	6,022	5,615	5,371	5,308
負債	5,055	4,455	3,014	2,818	2,711
利益剰余金（又は繰越欠損金）	1,143	1,440	2,481	2,440	2,504
業務活動によるキャッシュ・フロー	△339	△426	△387	△262	△162
投資活動によるキャッシュ・フロー	336	726	222	231	279
財務活動によるキャッシュ・フロー	—	—	△0	△0	△0
資金期末残高	111	410	245	214	330

表5 主要な財務データの経年比較（林業退職金共済事業等勘定）

(単位：百万円)

区分	20年度	21年度	22年度	23年度	24年度
経常費用	2,189	1,978	1,849	1,901	2,072
経常収益	2,052	2,127	1,840	2,003	2,278
当期総利益（又は当期総損失）	△137	30	△9	102	204
資産	13,297	13,589	13,699	13,850	13,824
負債	14,788	15,052	15,171	15,220	14,989
利益剰余金（又は繰越欠損金）	△1,491	△1,463	△1,472	△1,369	△1,165
業務活動によるキャッシュ・フロー	△231	123	73	38	△311
投資活動によるキャッシュ・フロー	222	101	△208	37	918
財務活動によるキャッシュ・フロー	—	—	△0	△1	△1
資金期末残高	141	365	229	304	911

表6 主要な財務データの経年比較（財形勘定）

(単位：百万円)

区分	20年度	21年度	22年度	23年度	24年度
経常費用	—	—	—	4,082	6,557
経常収益	—	—	—	6,413	11,302
当期総利益（又は当期総損失）	—	—	—	2,331	4,374
資産	—	—	—	728,701	662,585
負債	—	—	—	731,446	660,957
利益剰余金（又は繰越欠損金）	—	—	—	△2,748	1,626
業務活動によるキャッシュ・フロー	—	—	—	33,107	72,115
投資活動によるキャッシュ・フロー	—	—	—	△1,801	△1,105
財務活動によるキャッシュ・フロー	—	—	—	△31,862	△70,940
資金期末残高	—	—	—	8,097	8,168

※平成23年度は平成23年10月から平成24年3月までの6月間

表7 主要な財務データの経年比較（雇用促進融資勘定）

(単位：百万円)

区分	20年度	21年度	22年度	23年度	24年度
経常費用	—	—	—	563	679
経常収益	—	—	—	326	837
当期総利益（又は当期総損失）	—	—	—	0	158
資産	—	—	—	14,909	12,933
負債	—	—	—	13,253	11,119
利益剰余金（又は繰越欠損金）	—	—	—	1,656	1,814
業務活動によるキャッシュ・フロー	—	—	—	277	891
投資活動によるキャッシュ・フロー	—	—	—	995	9,870
財務活動によるキャッシュ・フロー	—	—	—	△1,056	△2,112
資金期末残高	—	—	—	430	9,078

※平成23年度は平成23年10月から平成24年3月までの6月間

(2) セグメント事業損益の経年比較・分析（内容・増減理由）

当機構は、退職金共済制度の健全性の維持又は向上に必要な収益を確保することを目標とし、安全かつ効率的な資産運用を実施し、中長期的な観点から安定的な収益を市場動向の影響を受けるため、単年度では事業損益が大きく変動することがある。

平成24年度決算においては、国内外株式の市場が堅調だったことから、各事業において、金銭信託の評価益が生じ、機構全体でも事業利益を計上することとなった。（表「主要な財務データの経年比較」17ページ～20ページ参照）

（区分経理によるセグメント情報）

- ① 一般の中小企業退職金共済事業等勘定の給付経理の事業損益は223,643百万円の利益となり、前年度比192,026百万円の増となっている。これは、給付経理の金銭信託の評価益（226,278百万円）により運用収入が前年度比193,516百万円の増となったことが主な要因である。

また、勘定共通では、187百万円の損失となり、前年度比204百万円の減となっている。これは厚生年金基金積立不足額が増加していることが主な要因である。

表 事業損益の経年比較（区分経理によるセグメント情報）

一般の中小企業退職金共済事業等勘定

（単位：百万円）

区分	20年度	21年度	22年度	23年度	24年度
給付経理	△192,899	153,634	△21,657	31,617	223,643
融資経理	5	5	5	4	2
勘定共通	△130	1,792	△59	17	△187
合計	△193,025	155,432	△21,710	31,638	223,458

- ② 建設業退職金共済事業等勘定の給付経理の事業損益は22,302百万円の利益となり、前年度比20,623百万円の増となっている。これは、給付経理の金銭信託の評価益（26,303百万円）により、運用収入が前年度比19,797百万円の増となったことが主な要因である。

また、特別給付経理の事業損益は789百万円の利益となり、前年度比839百万円の増となっている。これは、特別給付経理の金銭信託の評価益（1,180百万円）により、運用収入が前年度比869百万円の増となったことが主な要因である。

さらに、勘定共通では、62百万円の損失となり、前年度比19百万円の減となっている。これは厚生年金基金積立不足額が増加していることが主な要因である。



表 事業損益の経年比較（区分経理によるセグメント情報）

建設業退職金共済事業等勘定

（単位：百万円）

区分	20年度	21年度	22年度	23年度	24年度
給付経理	△35,556	17,942	△8,744	1,680	22,302
融資経理	1	1	1	1	0
特別給付経理	△1,836	629	△514	△50	789
勘定共通	67	772	37	△44	△62
合計	△37,324	19,344	△9,220	1,586	23,029

③ 清酒製造業退職金共済事業等勘定の給付経理の事業損益は70百万円の利益となり、前年度比105百万円の増となっている。これは、給付経理の金銭信託の評価益（128百万円）により、運用収入が前年度比93百万円の増となったことが主な要因である。

また、勘定共通では、5百万円の損失となり、前年度比1百万円の増となっている。これは退職給付費用が減少していることが主な要因である。

表 事業損益の経年比較（区分経理によるセグメント情報）

清酒製造業退職金共済事業等勘定

（単位：百万円）

区分	20年度	21年度	22年度	23年度	24年度
給付経理	115	419	1,022	△35	70
融資経理	0	0	0	0	0
特別給付経理	△1	1	23	△0	1
勘定共通	1	82	△4	△6	△5
合計	116	502	1,041	△41	66

④ 林業退職金共済事業等勘定の給付経理の事業損益は208百万円の利益となり、前年度比103百万円の増となっている。これは、給付経理の金銭信託の評価益（275百万円）により、運用収入が前年度比133百万円の増となったことが主な要因である。

また、勘定共通の事業損益は、3百万円の損失となり、前年度と同水準となっている。

表 事業損益の経年比較（区分経理によるセグメント情報）

林業退職金共済事業等勘定

（単位：百万円）

区分	20年度	21年度	22年度	23年度	24年度
給付経理	△138	95	△9	105	208
勘定共通	2	54	△0	△3	△3
合計	△137	149	△9	102	205

(3) セグメント総資産の経年比較・分析（内容・増減理由）

（区分経理によるセグメント情報）

- ① 一般の中小企業退職金共済事業等勘定の給付経理の総資産は4,029,306百万円となり、前年度比244,965百万円の増（6.5%増）となっている。これは、給付経理に係る金銭信託が評価益により、前年度比240,778百万円の増（16.5%増）となったことが主な要因である。

表 総資産の経年比較（区分経理によるセグメント情報）

一般の中小企業退職金共済事業等勘定

（単位：百万円）

区分	20年度	21年度	22年度	23年度	24年度
給付経理	3,312,171	3,496,564	3,605,511	3,784,341	4,029,306
融資経理	516	382	358	361	363
勘定共通	1,003	3,012	3,162	3,423	3,165
計	3,313,690	3,499,958	3,609,031	3,788,125	4,032,833
消去	△386	△85	△363	△382	△332
合計	3,313,304	3,499,873	3,608,668	3,787,743	4,032,502

- ② 建設業退職金共済事業等勘定の給付経理の総資産は858,008百万円と、前年度比26,714百万円の増（3.2%増）となっている。これは、給付経理に係る有価証券が前年度比20,373百万円の増（46.8%増）となったことが主な要因である。

表 総資産の経年比較（区分経理によるセグメント情報）

建設業退職金共済事業等勘定

（単位：百万円）

区分	20年度	21年度	22年度	23年度	24年度
給付経理	824,465	837,846	828,504	831,294	858,008
融資経理	94	67	48	49	49
特別給付経理	33,741	33,832	32,903	32,633	33,192
勘定共通	664	1,413	1,689	1,639	1,820
計	858,965	873,158	863,145	865,615	893,069
消去	△88	△57	△103	△90	△294
合計	858,877	873,101	863,041	865,525	892,775

- ③ 清酒製造業退職金共済事業等勘定の給付経理の総資産は4,810百万円と、前年度比61百万円の減（1.2%減）となっている。これは、給付経理に係る投資有価証券が前年度比125百万円の減（5.1%減）となったことが主な要因である。

表 総資産の経年比較（区分経理によるセグメント情報）

清酒製造業退職金共済事業等勘定

（単位：百万円）

区分	20年度	21年度	22年度	23年度	24年度
給付経理	5,856	5,500	5,111	4,871	4,810
融資経理	39	39	39	39	40
特別給付経理	395	367	342	326	316
勘定共通	22	117	129	141	155
計	6,312	6,022	5,621	5,377	5,320
消去	△3	△1	△5	△6	△12
合計	6,308	6,022	5,615	5,371	5,308

- ④ 林業退職金共済事業等勘定の給付経理の総資産は13,731百万円と、前年度比30百万円の減（0.2%減）となっている。これは、給付経理に係る有価証券が前年度比366百万円の減（20.1%減）となったことが主な要因である。

表 総資産の経年比較（区分経理によるセグメント情報）

林業退職金共済事業等勘定

（単位：百万円）

区分	20年度	21年度	22年度	23年度	24年度
給付経理	13,282	13,511	13,615	13,760	13,731
勘定共通	20	78	92	95	105
計	13,302	13,590	13,707	13,855	13,835
消去	△5	△0	△8	△5	△12
合計	13,297	13,589	13,699	13,850	13,824

(4) 目的積立金の申請及び取崩内容

目的積立金の申請及び取崩

該当なし。

(5) 行政サービス実施コスト計算書の経年比較・分析（内容・増減理由）

平成24年度の行政サービス実施コストは△246,815百万円（平成23年度は△26,388百万円）と、前年度比220,427百万円減となっている。これは、各事業の資産運用において、国内外株式等の市場環境が堅調だったことから、金銭信託の評価益が（254,164百万円）となったことが主な要因である。

表 行政サービス実施コスト計算書の経年比較

(単位:百万円)

区分	20年度	21年度	22年度	23年度	24年度
業務費用	241,062	△159,983	26,790	△26,361	△246,265
うち損益計算書上の費用	768,226	558,937	597,889	599,637	475,009
うち(控除)自己収入等	△527,164	△718,920	△571,099	△625,998	△721,274
損益外減損損失相当額	△8	84	-	△39	-
引当外賞与見積額	△14	△134	-	0	△13
引当外退職給付増加見積額	147	△5,594	4	80	△375
機会費用	-	-	-	0	0
(控除)法人税等及び国庫納付額	-	-	-	△68	△162
行政サービス実施コスト	241,187	△165,626	26,794	△26,388	△246,815

(注1) 行政サービス実施コスト計算書について

当機構の行政サービス実施コストが平成21、23、24年度においてマイナスとなっているが、これは主として共済事業の掛金収入・運用収入等が退職給付金等の費用を上回ったことにより、利益が発生した結果によるものである。このため、当該マイナスが国民に還元されることを示すものではない。

同様に、平成20、22年度において行政サービス実施コストがプラスとなっているのは、主として掛金収入・運用収入等が退職給付金等の費用を下回ったことにより、損失が発生した結果によるものである。このため、当該プラスが国民の負担に帰せられることを示すものではない。

(注2) 引当外退職給付増加見積額について

国からの出向職員に係る引当外退職給付増加見積額 △9百万円

## 2. 施設等投資の状況 (重要なもの)

## ①当事業年度中に処分した主要施設等

(単位:百万円)

施設名	① 取得価額	② 減価償却 累計額	③ 売却額 (注)	④ 売却益
退職金機構ビル及び同別館 土地・建物	3,800	309	7,794	4,304

(注) 売却代金7,805百万円から、売却に要した費用10百万円を控除した金額を記載しております。

### 3. 予算・決算の概況

(単位：百万円)

区分	20年度		21年度		22年度	
	予算	決算	予算	決算	予算	決算
収入	526,403	514,013	520,859	531,909	521,488	565,524
運営費交付金収入	3,519	3,519	3,270	3,270	-	-
国庫補助金収入	7,547	7,219	7,465	6,456	8,989	8,480
業務収入	514,005	502,133	508,941	521,022	511,329	555,058
業務外収入他	1,333	1,142	1,183	1,161	1,170	1,985
支出	540,854	522,316	535,282	510,073	572,215	455,508
退職給付金等	529,221	511,550	523,587	499,470	561,223	445,709
業務経費	7,442	6,867	7,677	6,730	7,241	6,186
一般管理費他	4,192	3,898	4,018	3,873	3,751	3,613

区分	23年度		24年度		
	予算	決算	予算	決算	差額理由
収入	700,559	721,420	766,634	704,070	
運営費交付金収入	341	341	435	421	
国庫補助金収入	8,989	8,714	8,814	8,585	
業務収入	690,050	711,295	756,172	694,125	新規貸付の減
業務外収入他	1,179	1,071	1,213	939	
支出	707,130	582,854	849,516	694,408	
退職給付金等	521,311	439,642	517,045	438,034	支給件数の減
業務経費	181,718	139,555	328,272	252,915	新規貸付の減
一般管理費他	4,103	3,657	4,201	3,459	

#### 4. 経費削減及び効率化目標との関係

当法人においては、平成24年度（当中期目標期間終了年度）における運営費交付金を充当する一般管理費（退職手当は除く。）及び退職金共済事業経費（下表の削減対象経費）を、平成19年度の当該経費に比べて、18%以上削減することを目標とし、平成21年度決算では17.5%の削減となった。平成22年度からの運営費交付金廃止により予算額に対して業務運営全体を通じて一層の効率化を行うことにより、更なる経費削減を図るとともに予算の適正な執行を行った結果、平成24年度（予算額）6,952百万円に対し、平成24年度決算額では6,015百万円となり13.5%の削減となった。

また、人件費については、平成17年度を基準として平成24年度において7%以上の削減を行うことを目標としていたところ、計画的な定員削減に加え、超過勤務の削減を図ったことにより、平成24年度においては平成17年度比19.3%の削減となった。

削減対象経費基準額      19年度    3,416百万円  
人件費基準額              17年度    2,145百万円

（単位：百万円）

区分	前 中 期 目 標 期 間							
	16年度		17年度		18年度		19年度	
	金額	節減率	金額	節減率	金額	節減率	金額	節減率
削減対象経費	4,587	△9.98%	4,722	△7.32%	4,753	△6.71%	4,346	△14.70%
うち 人件費	—	—	2,145 (基準額)	—	2,078	△3.14%	2,019	△5.89%

区分	当 中 期 目 標 期 間									
	20年度		21年度		22年度		23年度		24年度	
	金額	節減率	金額	節減率	金額	節減率	金額	節減率	金額	節減率
削減対象経費	3,095	△9.40%	2,820	△17.47%	6,707	△7.59%	6,236	△10.34%	6,015	△13.48%
うち 人件費	1,962	△8.53%	1,880	△12.39%	1,851	△13.69%	1,824	△14.97%	1,732	△19.27%

（注1）削減対象経費については、独立行政法人の設立が平成15年10月のため平成16年度から表示している。

（注2）人件費は、役員給（非常勤役員給与を除く）並びに職員基本給、職員諸手当、超過勤務手当及び休職者給与に相当する範囲の費用である。

（注3）節減率は、基準額に対する率であり千円単位で計算したものを表示している。

（注4）平成22年度からの運営費交付金廃止により、当事業年度の削減対象経費に係る節減率は、予算額に対

する率を千円単位で計算したものを表示している。

(注5)経年比較をするため平成23年10月に業務移管した勤労者財産形成事業にかかる経費は除外している。

## V. 事業の説明

### 1. 財源構造

当法人の経常収益は、726,069百万円で、その内訳は以下のとおりである。

#### ① 運営費交付金収益

534百万円（経常収益の0.1%）

#### ② 補助金等収益（事務費等の補助である国庫補助金の収益）

1,726百万円（経常収益の0.2%）

#### ③ 退職金共済事業における事業収益

705,623百万円（経常収益の97.2%）

事業収益の内訳は、以下のとおり。

ア) 掛金及過去勤務掛金収入 409,580百万円

イ) 運用収入 295,976百万円

ウ) その他の収入 68百万円

#### ④ 勤労者財産形成促進事業における事業収益

10,798百万円（経常収益の1.5%）

事業収益の内訳は、以下のとおり。

ア) 貸付金利息 10,789百万円

イ) その他の収入 9百万円

#### ⑤ 雇用促進融資事業における事業収益

155百万円（経常収益の0.0%）

事業収益の内訳は、以下のとおり。

ア) 貸付金利息 154百万円

イ) その他の収入 2百万円

#### ⑥ 補助金等収益（加入事業主の掛金負担軽減措置の費用である国庫補助金の収益）

6,832百万円（経常収益の0.9%）

#### ⑦ その他の収益

401百万円（経常収益の0.1%）

## 経常収益の勘定別内訳

(単位：百万円)

区分	機 構	中退共 勘 定	建退共 勘 定	清退共 勘 定	林退共 勘 定	財 形 勘 定	雇用促進 融資勘定
経常収益	726,069	627,630	85,367	395	2,278	11,302	837
運営費交付金収益	534	—	—	—	—	486	48
補助金等収益(事務費等)	1,726	1,032	260	18	27	0	390
事業収益	716,577	620,796	83,566	252	1,925	10,798	155
掛金及過去勤務掛金収入	409,580	360,530	47,440	83	1,526	—	—
運用収入	295,976	259,570	35,848	169	389	—	—
その他の収入	11,021	696	277	0	9	10,798	155
補助金等収益(掛金負担軽減措置)	6,832	5,787	995	2	47	—	—
その他の収益	401	15	546	123	279	17	245

## 2. 財務データ及び業務実績報告書と関連付けた事業説明

### (1) 退職金共済事業

退職金共済事業は、中小・零細企業において、単独では退職金制度を持つことが困難であることから、中小企業の従業員の福祉の増進と雇用の安定を図り、ひいては中小企業の振興と発展に寄与することを目的として、中小企業の従業員について、中小企業者の相互扶助の精神と国の援助で実施されているものである。

中小事業主は、その従業員を被共済者とする退職金共済契約を当機構と締結し、機構に掛金を支払い、機構は、その掛金を運用し、従業員が退職した時に従業員に直接退職金を支給する仕組みである。

事業の財源は、事務費については、国庫補助金（平成 24 年度 1,336 百万円）及び給付経理（退職金共済事業に関する取引についての経理）からの受入（平成 24 年度 4,918 百万円）であり、事業費については、中小企業者の従業員の退職金原資を積立てるための拠出金である掛金（平成 24 年度 409,580 百万円）と退職金共済事業への加入を促進し、退職金の給付水準の改善を図るための掛金助成国庫補助金（平成 24 年度 6,832 百万円）となっている。

事業に要する費用は、一般管理費（事務費）850 百万円及び業務費 466,318 百万円が主たるものである。

### (2) 勤労者財産形成促進事業

勤労者財産形成促進事業は、勤労者の計画的な財産形成を国と事業主が支援することにより促進し、勤労者の生活の安定を図り、もって国民経済の健全な発展に寄与することを目的とした勤労者財産形成促進制度における事業であり、当機構は、財形貯蓄を行っている勤労者の持家取得、勤労



者の持家である住宅の改良に要する資金を、事業主等を通じて勤労者に融資する財形持家融資制度の事業運営に当たっている。

事業の財源は、事務費については、運営費交付金（平成 24 年度 387 百万円）の受入であり、事業費については、財形貯蓄の集積資金で、財形貯蓄取扱機関から調達した資金（平成 24 年度 155,761 百万円）及び利用者からの回収元利金（平成 24 年度 89,445 百万円）となっている。事業に要する費用は、借入金に係る支払利息等の財務費用 5,833 百万円、一般管理費及び業務費 724 百万円となっている。

### （3）雇用促進融資事業

雇用促進融資事業は、中小企業における労働力の確保、産業・地域間との労働力移動の円滑化を図るため企業内福利厚生施設を設置・整備する事業主を金融面から支援する雇用促進融資制度における事業であり、財政投融资資金を原資として、事業主に対し、労働者住宅設置資金・福祉施設設置資金を長期・低利で融資する事業として発足したものであるが、特殊法人等整理合理化計画等により平成 14 年度から新規貸付業務が廃止されており、現在は債権の管理回収業務を行っている。

事業の財源は、事務費については、運営費交付金（平成 24 年度 34 百万円）の受入であり、事業費については、補助金（平成 24 年度 390 百万円）と利用者からの回収元利金収入（平成 24 年度 1,100 百万円）となっている。

事業に要する費用は、借入金に係る支払利息等の財務費用 597 百万円、一般管理費及び業務費 82 百万円となっている。

なお、機構は、次に掲げる業務ごとに経理を区分し、それぞれ勘定を設けて整理しなければならないこととされている（中退法第 7 4 条第 1 項及び附則第 2 条第 2 項）。

- ① 一般の中小企業退職金共済業務
- ② それぞれの特定業種退職金共済業務
- ③ 勤労者財産形成促進業務
- ④ 雇用促進融資業務

当機構の事業内容は、

#### （1）退職金共済事業

①関係官公庁、関係事業主団体と連携を図りつつ、加入の促進を実施している。平成 24 年度における加入実績数は、「平成 24 事業年度計画」で定めた加入目標数 457,030 人に対し、443,995 人となっている。（表 1）

また、平成 24 年度における掛金収入は、上記 1.「経常収益の勘定別内訳」のとおりとなっている。

②予定運用利回りに基づく退職金を将来にわたり確実に給付できるよう、資産

運用の目標、基本ポートフォリオ等を定めた「資産運用の基本方針」に基づき、安全かつ効率を基本として納付された掛金を運用している。

平成 24 年度における資産運用実績は、委託運用については、内外債券高、内外株高や円高修正によりプラス収益を確保し、自家運用においても安定した収益を確保している。(表 2)

なお、累積欠損金が生じている林退共事業については平成17年度に策定した「累積欠損金解消計画」に基づき着実な解消に取り組んでいくこととしている。(表 3)。

③24 年度における、退職金（解約手当金を含む。）の支給件数は 344,701 件となっており、支給金額は 435,167 百万円となっている。(表 4)

## (2) 勤労者財産形成促進事業

①外部委託の活用及び関係機関との連携等により、制度の周知を図っている。平成 24 年度における財形融資及び財形融資資金の貸付額は 11,308 百万円、回収額は 78,089 百万円となっており、平成 25 年 3 月末残高は 647,402 百万円となっている。

②当期利益として 4,374 百万円を計上した結果、累積欠損金を解消した。

## (3) 雇用促進融資事業

債務者及び抵当物件にかかる情報収集及び現状把握等の債権の管理を行い、リスク管理債権については、債権管理業務を受託している金融機関に対し業務指導を実施し、現状の把握等に努める等の債権の回収・処理を行うことで、財政投融資へ約定通りの償還を行った。

償還額：元金 2,112 百万円  
利息 609 百万円

(表 1) 24年度新規加入者

	機 構	中退共事業	建退共事業	清退共事業	林退共事業
加入目標①	457,030人	332,600人	122,000人	130人	2,300人
加入実績②	443,995人	321,508人	120,470人	144人	1,873人
達成率②／①	97.1%	96.7%	98.7%	110.8%	81.4%

(注) 達成率は単位未満四捨五入。

(表2) 24年度資産運用状況

(単位：百万円)

	中退共事業 給付経理	建退共事業 給付経理	建退共事業 特別給付経理	清退共事業 給付経理	清退共事業 特別給付経理	林退共事業 給付経理
資産残高	4,029,306	858,008	33,192	4,810	316	13,731
運用等収入	259,570	34,398	1,449	166	3	389
運用等費用	522	65	6	1	—	2
当期純利益(△損失)	227,947	22,302	789	69	0	208
決算運用利回り	6.89%	4.15%	4.48%	3.55%	0.92%	2.90%

(注) 単位未満四捨五入。ただし、当期純損失は切上げ、当期純利益は切捨て。

(表3) 累積欠損金の推移 (単位：百万円)

	中退共事業	林退共事業
承継額①	322,957	2,137
15年度下期	268,426	1,770
16年度	228,338	1,650
17年度	86,652	1,436
18年度	15,115	1,396
19年度	156,381	1,357
20年度	349,280	1,495
21年度	195,647	1,401
22年度	205,709	1,409
23年度	174,092	1,304
24年度②	0	1,096
承継時からの解消額 ①－②	322,957	1,041

(注) 単位未満切上げ。

(表4) 24年度退職金支給件数及び支給金額

(単位：百万円)

	機 構	中退共事業	建退共事業	清退共事業	林退共事業
支給件数	344,701件	286,707件	55,795件	231件	1,968件
支給金額	435,167	379,087	54,004	227	1,849

(注) 支給金額は単位未満四捨五入。

以上